

日時 二〇一一年四月三日(日)午後二時～五時
 会場 早稲田専任園セミナーハウス二〇〇号室

「早稲田大学児童文学サークル」 と現代日本児童文学



多くの作家を輩出し、また旧来の童話伝統を批判する「少年文学宣言」を行った「早大童話会」は、学生の児童文学運動のみならず、日本の児童文学界の旗手であったといっているだろう。その流れを汲む二つのサークルがそれぞれ数十人規模の会員を抱え今も活発に活動している。そして、彼らは、今秋の早稲田祭に向けて、「早稲田大学児童文学サークル史」編集に着手している。

当初は、その部室を座談会会場にする予定だったが、3・11以降の節電のため学生会館が閉められ、近くの会議室を使うこととなった。座談会の席に着いたのは一九四九(昭24)年入会の神宮輝夫さん、五八(昭33)年入会の三田村信行さん、六三年(昭38)年入会の千葉幹夫さん、六八(昭43)年入会の川北亮司さん、現役学生として、「早稲田文芸会」から上島邦彦さん、上野知明さん、「早稲田大学児童文学研究会」から齋藤甫さん、佐藤千晴さん、そしてオブザーバーとして野上暁さん。司会は本誌編集長の西山が担当した。

以下、九〇(平成2)年入会の清宮朋樹さんにまとめてもらった。
 (西山記)

■サークルの現状・入会の動機

司会 まずはじめに、今のサークルの様子について、現役